

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000012	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社ケアメディカルことり		
事業所名	グループホームことりの森		
所在地	(〒245-0051) 神奈川県横浜市戸塚区名瀬町613-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月行っている季節感のある行事には、利用者皆様が職員と共に準備段階より熱心に取り組んでいる。
・御家族に毎月お送りしている「ことりの森たより」には、行事を中心に利用者皆様のご様子を写真入りでお伝えしている。
・年に4～5回は車で様々な場所へ外出している。特にホームが茅ヶ崎市に所持している「ことり農園」は、定番の外出先となり、利用者の皆が季節の野菜収穫を楽しみにしている。
・月1回、内科医の往診があり、利用者様が体調をくずしたときは、医師と連絡を取り合える関係を確保している。また、訪問看護師が、定期的にバイタルチェックを実施している。
・職員の離職率が極めて低いため、利用者様には、顔なじみの安心感がある。
・表札をはじめ手作品が多く、温かみのある空間づくりを心掛けている。
・リビングからは、自然の景色や職員が植えている各種の花も観賞できる。
・ホームページは、行事を行うたびに写真付きのブログを更新している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年10月27日	評価機関 評価決定日	令和2年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇理念を踏まえた「温かい家庭的な日常生活」の提供
勤務年数の長いベテラン職員と、利用者の間には家族のような信頼が生まれている。利用者は、家庭的な食事の提供を受け、行事、レクリエーションや外出などを楽しみ、穏やかな「温かい家庭的な日常生活」を送っている。
◇安心信頼される健康管理と医療体制
・月1回の協力医の訪問診療に加え、必要に応じて専門医へ紹介する医療対応が可能な体制となっている。また、週1回看護師が、利用者の身体や内服薬の管理、急変時への対応、看取りに対する考え方などの「医療体制方針」を策定して、利用者・家族から安心信頼される健康管理と医療体制を整備している。
・利用者が重度化した場合は、家族、協力医、看護師と職員が連携し、方針を共有して支援する体制も整備され、看取りの経験もある。
【事業所が工夫している点】
◇事業所では、コロナ禍でも毎月「ことりの森たより」を作成し、行事での利用者の生き生きした様子などを家族に報告している。
◇年間行事計画に基づき、利用者は、事業所に所属の「ことり農園」や、フラワーセンター、花菜ガーデン、美術館などに出かけ、ドライブを兼ねて楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームことりの森
ユニット名	かえで

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアカンファレンスや日々の申送りの際など、話し合いの場では常に運営理念が念頭に置かれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念には「利用者の人格尊重、健康管理の充実、温かい家庭的な雰囲気です日常生活を送る」を掲げている。 ・職員は、毎月のカンファレンスなどで、運営理念を確認してケアの実践につなげている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、散歩途中に近所の方々と挨拶を交わしている。また、毎年近所のGHのお祭りに招待され、参加させていただいている。 ※新型コロナウイルスの影響にて交流は、大分少なくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入して、地域の情報を把握し、運営に活かしている。 ・利用者は、地域のお祭りや、近隣のグループホームのお祭りに参加し、また、地域住民を事業所主催の花火大会に招待するなど、地域との交流を図っている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や見学の際に相談を随時受け入れている。また運営推進会議では地域の方々やご家族、地域包括支援センターの職員などと認知症ケアについて具体的な話し合いを行っており、事業所の支援方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ご家族や地域の方々、地域包括支援センターの職員との話し合いも活発に行われ、サービスの向上に繋がっている。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は文書のやり取りにて意見などをいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月ごとに、地域住民代表、地域包括支援センター職員と家族が参加し、活動状況を報告した後、意見交換を行っている。 ・参加者の地域住民代表の取り計らいで、非常災害時における地域消防団との連携が可能となった。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。 また、地域包括支援センターに相談させていただいたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢・障害支援課の職員とは、要介護認定更新などで訪問した際、事業所の近況を報告した後意見交換を行っている。 ・地域支援包括支援センターとは連絡を密にし、認知症ケアの方法等について現状を説明し相談している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	横浜市へ身体拘束廃止取組について基準を順守し「基準型」として届出を行っており、算定要件を理解し、委員会や研修会を行っている。	・身体拘束防止マニュアルを策定している。全職員は3か月に1回、研修を受けて、身体拘束しないケアの実践に努めている。 ・外出願望のある利用者には、ベランダでの体操や外気浴などで気分転換してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者はホーム全体で3名おられ、行政書士等と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族などに説明を行っている。また、重要事項説明書もホーム玄関に掲示しており、見学・面接・入居時に十分に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。	・家族の意見・要望は、運営推進会議や来訪時などで聴いている。 ・意見は、申し送りやカンファレンスで話し合い対応している。 ・家族からの要望により、コロナ禍で一時中止にしていた面会を、10月から再開した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスや毎日の申し送りで意見交換などを行ない、可能な限りその意見や提案を運営に反映させている。	・職員の意見や提案は、毎月のカンファレンスや日々の会話で聞き、運営に反映している。 ・事業所サービスの向上に向け、利用者に必要な物品の購入についても、その都度職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる環境作りを行っている。 個々の能力や実績に応じた給与水準を定めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験豊富な者が多く認知症研修や相互研修、新人研修を多々行なってきた。 様々な研修の中から個々の職員に応じた研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームへの行事への参加、外部研修会の参加にてネットワークづくりを行い、サービスの質向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、状況把握と共に何でも相談できる職員の存在を把握してもらい、安心感を持って頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、様々な相談を伺い、安心し、納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に他のサービスの利用も視野に含めて面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレク、季節に応じた行事やその準備を職員と入居者が一緒に行い、同じ思いや目標、感動や達成感を持つ事で、生活を共にする家族の様な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の開催時に、ご家族を招待し、協力して頂いたり、受診の付添いや個々の必要物品の購入なども可能な限り協力して頂く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出、外泊されている。ホームでのイベント・パーティーにはご家族などを招待している。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は時間などの制限を設けて面会などを実施中。	<ul style="list-style-type: none"> 入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。 家族と外食や買い物で外出したり、外泊している利用者もいる。 希望により、友人との手紙のやりとりや電話の取次ぎを支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮する競技などを行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会（転居や入院の際）や、ご家族などへ電話連絡にて様子を伺っており、必要があればフォロー出来る準備などはある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見などを傾聴し、日常生活の中で出来ることを定期的なカンファレンスにて検討し対策を行っている。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めて対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントで、住環境や生活歴を確認している。 ・利用者との日常会話や家族からの情報などからも思いや意向の把握に努めている。 ・把握した情報は、申し送りなどで共有しケアに活かしている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に生活歴や生活環境の情報収集を行い、アセスメント表を作成し、ケアに役立てている。日常生活の中での気付きや問題点などがあれば要因解明の一つの手段として生活歴などのアセスメントをとり直して対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りや1回/月のケアカンファレンスにて現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の意見や往診Drの意見を盛り込んだケアプランをご家族や本人に確認して頂き、意見や要望、アイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	・介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、職員間でカンファレンスを行い、本人・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。 ・計画は3～8か月ごとに見直し、状態により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の時間ごとにケアの実践・結果、気づきなどを個別に記録し、申送り等にて職員間で情報の共有を行っており、カンファレンスに反映させ介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表者が管理者と同様に状況を把握している為、本人や家族の、その時々ニーズへは速やかで柔軟な対応を行っており、支援やサービス提供に反映できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際など地域包括支援センターの職員や地域住民との交流にて地域資源の把握に努め、入居者のQOL向上に役立てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診、1回/2wの処方、検査も定期的に行ない、常にDrとの電話相談も出来る。希望があれば馴染みのかかりつけ医への受診も対応している。	・月1回協力医（内科）の訪問診療があり、1か月の健康チェック表を基に、利用者を診察している。 ・利用者の希望に応じて、歯科医の訪問診療を受診している。 ・職員の看護師が、週1回、健康管理と内服薬の管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の看護師訪問の際に情報伝達や相談を行っている。また、管理者が看護師である為、24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からDrとの話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期にあわせて本人や家族、往診Drや看護師等と話し合いを行い、事業所で出来ること十分に説明し、納得を得た上で支援の方針を決めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、利用者と家族に事業所の対応を説明し、利用者の状況に応じて、本人・家族が医師と話し合い、方針を共有している。 ・職員は、本人への具体的な支援方法について、ケアカンファレンスで支援方針を検討している。 ・看取りの経験もある。 	・既に重度化対応の研修を行っていますが、看取り後の振り返りカンファレンスを実施するなど、職員の看取り対応の実務や知識のさらなるレベルアップが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や月1回のカンファレンス内での内部研修、日々の申し送りの中で必要に応じて指導や訓練を行い、実践力を職員全員に身につけてもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は定期的に行い、方法などは全職員が身につけている。また、屋外に避難が必要な際は地域住民の協力が得られる体制も整っているが、ホームへは様々な備蓄が十分にある為、若干名であれば近隣住民の非難受け入れも可能である。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含む防災・避難訓練を定期的に行い、避難方法を身につけている。いざという時には、地域住民の協力が得られる関係にあるほか、住民の受け入れも可能な体制ができている。 ・飲料水や食品、備品など、災害用の備蓄は「備蓄リスト」で、保管管理している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者にあつた言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接している。	・利用者を敬う気持ちを持ち、一人ひとりの個性や考え方により、ケースバイケースの対応を心掛けている。 ・日常の言葉遣いや感謝の言葉かけは、全職員が同じ対応ができるよう内部研修で確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々の入居者が思いを表したり自己決定出来る環境作りを心掛けている。個人の誕生日には希望を聞き入れ、外食や食事メニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めて頂くこともある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常から一人ひとりのペースを大切にするケアを実践している。その日の過ごし方に関しては強制はせず、提案や促す対応を行っているが、希望があれば、それに沿える様に努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に1～2回の美容師の訪問があり希望にそったカットやヘアカラーを行なっている。入居者個々の担当職員が本人の好みに合った衣類を購入したり、ご家族に購入をお願いしたりしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節に合った食事を提供し、食事中のゆったりした時間や会話を大切にする様に心掛けている。食後の片付けは当番制を設けているが、皆が率先して行って下さり、その際の会話も楽しまれている。	・食事は、季節や利用者の好みに合わせ職員が手作りし、食後の片付けには、利用者も当番制で関わっている。 ・職員は、食事中利用者との会話を大切にしている。 ・外食、外出先での弁当や行事食など、食の楽しみが豊富である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、必要であれば水分摂取チェック表を使用して状態把握に努めている。また、個々の心身の状態に合わせて栄養バランスの調整を補助食品などにて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、義歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るように支援している。義歯は夜間帯に預かり消毒をおこなっている。又AM・PMに一回づつイソジンうがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべく個々の排泄タイミングにあった介助を心がけている。必要に応じてPトイレを使用しているが、失敗や失禁があってもご本人が悲観的にならないように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりのパターンを把握して、支援している。 ・支援の際は、本人の自尊心に配慮している。 ・職員の適切な声かけや誘導で、失敗が少なくなった事例が多い。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や階段リハビリ・足踏み運動、前屈運動などで身体を動かして頂きながら、水分や食物繊維の提供及び摂取を心がけている。また、個々の状態にあわせて下剤服用の指示を往診Drから受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けた見守りを行っている。浴室の壁には富士山の絵を貼り、様々な入浴剤にて楽しんでいただいている。また、季節にあわせて菖蒲湯やゆず湯なども準備している。	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の入浴を基本に、湯加減は本人の好みに応じ調節している。 ・利用者は、浴室の富士山の絵や入浴剤の色と香り、職員との会話を楽しみながら入浴している。 ・入浴を拒む方には、職員のチームワークで対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけ、外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付けて頂くと共に、個々の居室の環境を整え、全入居者が夜間は良眠している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理は看護師が行っており、入居者の名前ごとに朝・昼・夕・眠前と分け、日にちも記入され、解かり易く管理している。薬の目的や副作用に関しては医師や看護師の指導の下、十分理解し状態変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、ご本人のしたい事や出来る事には参加して頂いている。また、お手伝いなどでも役割を持ち、張り合いのある時間を過ごして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩を行なう様にし、四季の変化を体感している。また近隣の行事や催しに積極的に参加するように心がけている。茅ヶ崎にある「ことり農園」へは定期的に外出し、野菜の収穫やピクニックも楽しんでいる。	・日常的に散歩やベランダに出て外気浴をしている。 ・事業所農園には、野菜の収穫を兼ねピクニックを楽しんでいる。 ・年間行事計画に則り、花見、大船フラワーセンターや平塚花菜ガーデンなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があり、管理が可能なご入居者であれば、個人でお金を所持して頂いている。また、外出の際などはお預かり金からおみやげに、ご自分で選ばれたものを購入して頂いたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関してはご本人の希望に沿って適切に援助を行っている。電話の取次は随時行っているが、ご本人からの電話に関してはご本人や相手先の状況などを十分に考慮した上で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表札も全て手作り。調度品は明るく温かみのある物を揃えている。ほぼ毎月、その季節や行事に合った壁飾りなどを入居者と共に作製し、飾り付けも一緒に行い、居心地良く過ごせる空間づくりを心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、従来以上に清掃、消毒を徹底している。共用空間は職員の手作り品が多く、調度品は明るく温かみのあるもので居心地の良い空間づくりをしている。 ・新たにホームシアターシステムを導入し、大型画面での映画鑑賞も行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやリビングが個々の利用者にとって居心地の良い場所になるように、テーブルやソファを各所に設置し、日ごろから配慮に努めており、皆様思い思いに毎日を過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない、協力して頂きながら居心地の良い部屋になる様に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の備え付けの設備以外、愛用品や思い出のものなど持ち込んでもらっている。 ・家族の協力を得て、本人の身体状況や職業歴・生活歴・趣味・嗜好などを考慮しながら居心地よく過ごせる居室となるようにしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は完全バリアフリーで、生活スペースには手摺りが完備されており、活用して頂く様に援助している。空間内に転倒リスクに繋がるような物品を置かないように配慮し、安心安全に生活が送れるように努めている。		

事業所名	グループホームことりの森
ユニット名	もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアカンファレンスや日々の申送りの際など、話し合いの間では常に運営理念が念頭に置かれている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、散歩途中に近所の方々と挨拶を交わしている。また、毎年近所のGHのお祭りに招待され、参加させて頂いている。 ※新型コロナウイルスの影響にて交流は大分少なくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や見学の際に相談を随時受け入れている。また運営推進会議では地域の方々やご家族、地域包括支援センターの職員などと認知症ケアについて具体的な話し合いを行っており、事業所の支援方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ご家族や地域の方々、地域包括支援センターの職員との話し合いも活発に行われ、サービスの向上に繋がっている。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は文書のやり取りにて意見などを頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。 また、地域包括支援センターに相談させて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	横浜市へ身体拘束廃止取組について基準を順守し「基準型」として届出を行っており、算定要件を理解し、委員会や研修会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者はホーム全体で3名おられ、行政書士等と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族などに説明を行っている。また、重要事項説明書もホーム玄関に掲示しており、見学・面接・入居時に十分に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスや毎日の申し送りで意見交換などを行ない、可能な限りその意見や提案を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる環境作りを行っている。 個々の能力や実績に応じた給与水準を定めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験豊富な者が多く認知症研修や相互研修、新人研修を多々行なってきた。 様々な研修の中から個々の職員に応じた研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームへの行事への参加、外部研修会の参加にてネットワークづくりを行い、サービスの質向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、状況把握と共に何でも相談できる職員の存在を把握してもらい、安心感を持って頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、様々な相談を伺い、安心して、納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に他のサービスの利用も視野に含めて面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレク、季節に応じた行事やその準備を職員と入居者が一緒に行い、同じ思いや目標、感動や達成感を持つ事で、生活を共にする家族の様な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の開催時に、ご家族を招待し、協力して頂いたり、受診の付添いや個々の必要物品の購入なども可能な限り協力して頂く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出、外泊されている。ホームでのイベント・パーティーにはご家族などを招待している。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は時間などの制限を設けて面会などを実施中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮する競技などを行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会（転居や入院の際）や、ご家族などへ電話連絡にて様子を伺っており、必要があればフォロー出来る準備などはある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見などを傾聴し、日常生活の中で出来ることを定期的なカンファレンスにて検討し対策を行っている。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に生活歴や生活環境の情報収集を行い、アセスメント表を作成し、ケアに役立てている。日常生活の中での気付きや問題点などがあれば要因解明の一つの手段として生活歴などのアセスメントをとり直して対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りや1回/月のケアカンファレンスにて現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の意見や往診Drの意見を盛り込んだケアプランをご家族や本人に確認して頂き、意見や要望、アイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の時間ごとにケアの実践・結果、気づきなどを個別に記録し、申送り等にて職員間で情報の共有を行っており、カンファレンスに反映させ介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表者が管理者と同様に状況を把握している為、本人や家族の、その時々ニーズへは速やかで柔軟な対応を行っており、支援やサービス提供に反映できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際など地域包括支援センターの職員や地域住民との交流にて地域資源の把握に努め、入居者のQOL向上に役立てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診、1回/2wの処方、検査も定期的に行ない、常にDrとの電話相談も出来る。希望があれば馴染みのかかりつけ医への受診も対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の看護師訪問の際に情報伝達や相談を行っている。また、管理者が看護師である為、24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からDrとの話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期にあわせて本人や家族、往診Drや看護師等と話し合いを行い、事業所で出来ること十分に説明し、納得を得た上で支援の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や月1回のカンファレンス内での内部研修、日々の申し送りの中で必要に応じて指導や訓練を行い、実践力を職員全員に身につけてもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は定期的に行い、方法などは全職員が身につけている。また、屋外に避難が必要な際は地域住民の協力が得られる体制も整っているが、ホームへは様々な備蓄が十分にある為、若干名であれば近隣住民の非難受け入れも可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者にあつた言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接するようしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々の入居者が思いを表したり自己決定出来る環境作りを心掛けている。個人の誕生日には希望を聞き入れ、外食や食事メニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めて頂くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常から一人ひとりのペースを大切にするケアを実践している。その日の過ごし方に関しては強制はせず、提案や促す対応を行っているが、希望があれば、それに沿える様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に1～2回の美容師の訪問があり希望にそつたカットやヘアカラーを行なっている。入居者個々の担当職員が本人の好みに合つた衣類を購入したり、ご家族に購入をお願いしたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節に合つた食事を提供し、食事時のゆったりした時間や会話を大切にする様に心掛けている。食後の片付けは当番制を設けているが、皆が率先して行って下さり、その際の会話も楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、必要であれば水分摂取チェック表を使用して状態把握に努めている。また、個々の心身の状態に合わせて栄養バランスの調整を補助食品などにて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、義歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るように支援している。義歯は夜間帯に預かり消毒をおこなっている。又AM・PMに一回づつイソジンうがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべく個々の排泄タイミングにあった介助を心がけている。必要に応じてPトイレを使用して頂き、失禁を減らす対応を行っているが、失敗や失禁があってもご本人が悲観的にならないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や階段リハビリ・足踏み運動、前屈運動などで身体を動かして頂きながら、水分や食物繊維の提供及び摂取を心がけている。また、個々の状態にあわせて下剤服用の指示を往診Drから受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けた見守りを行っている。浴室の壁には富士山の絵を貼っており、様々な入浴剤にて楽しんで頂いている。また、季節にあわせて菖蒲湯やゆず湯なども準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけ、外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付けて頂くと共に、個々の居室の環境を整え、全入居者が夜間は良眠している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理は看護師が行っており、入居者の名前ごとに朝・昼・夕・眠前と分け、日にちも記入され、解かり易く管理している。薬の目的や副作用に関しては医師や看護師の指導の下、十分理解し状態変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、ご本人のしたい事や出来る事には参加して頂いている。また、お手伝いなどでも役割を持ち、張り合いのある時間を過ごして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。また近隣の行事や催しに積極的に参加するように心がけている。茅ヶ崎にある「ことり農園」へは定期的に外出し、野菜の収穫やピクニックも楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があり、管理が可能なご入居者であれば、個人でお金を所持して頂いている。また、外出の際などはお預かり金からおみやげに、ご自分で選ばれたものを購入して頂いたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関してはご本人の希望に沿って適切に援助を行っている。電話の取次は随時行っているが、ご本人からの電話に関してはご本人や相手先の状況などを十分に考慮した上で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表札も全て手作り。調度品は明るく温かみのある物を揃えている。ほぼ毎月、その季節や行事に合った壁飾りなどを入居者と共に作製し、飾り付けも一緒に行い、居心地良く過ごせる空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやリビングが個々の利用者にとって居心地の良い場所になるように、テーブルやソファを各所に設置し、日ごろから配慮に努めており、皆様思い思いに毎日を過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない、協力して頂きながら居心地の良い部屋になる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は完全バリアフリーで、生活スペースには手摺りが完備されており、活用して頂く様に援助している。空間内に転倒リスクに繋がるような物品を置かないように配慮し、安心安全に生活が送れるように努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームことりの森

作成日 令和2年11月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	・既に重度化対応の研修を行っているが、看取り後の振り返りカンファレンスを実施するなど、職員の看取り対応の実施や知識のさらなるレベルアップが必要。	・全職員の看取りに対する実務や知識などのレベルアップを図り、今後のケアに活かして行く。	・外部研修会などに率先して参加し、研修の内容を内部研修などにて全職員に伝え、レベルアップに繋げる。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。